

## 医療保障制度の意義

田中 滋\*

市場経済は、効率的な資源配分による経済成長を通じて、西欧と北米にはじまり、日本・豪州・NIESなどの諸国および地域に豊かな社会を実現させた。

では、市場経済の下、資本の多寡と、働く能力に影響する環境要因（たとえば健康度・年齢・国や親などの経済力に基づく教育の違い・人種や宗教をはじめさまざまな理由による差別）を元に補正なしの成果分配を行うと何が起きるだろうか。答えは、富の分配の著しい不平等、ならびにそれに起因する健康・寿命・教育格差の継続と拡大である。歴史が教えるように、市場経済の裸の成果がもたらす不平等の行き過ぎは、犯罪・テロなどの破壊行為（個人的な自暴自棄のみならず、暴力的な政治活動、社会の混乱や集団自殺を訴えるような狂信的な宗教、地下組織等への依存）の強い誘引となりうる。

ゆえに、社会の安定と平和の上にはじめて市場経済が継続的に成果を生むことを経験的に学んだ国々では、「市場経済を補完する社会的装置」の一つとして、社会保障制度の意義を重視してきた。近代社会の叡智の代表例と言える。

医療サービスや介護サービスの利用を支援する社会保障制度は、市場経済機能の基盤たる安定した社会を維持する役割を果たす。市場経済の完全な適用になじまない、かぎられた分野にそうした保障制度を適用している以上、そこでは相対的に市場経済性が弱いことは論理的に必然の帰結である。したがって、「医療は過剰な規制が残る官製市場だ」「（患者のもつ経済力の差を治療方法に反映させる）混合診療を導入せよ」などの意見は、保障制度の目的からして論理矛盾の批判を展開していることになる。

ただし、現在の医療制度が無謬であると主張しているわけではない。少なくとも、①提供者に傾いているパワーバランスを是正するための利用者側のエンパワーメント、②医療に関する情報の標準化と透明化を通ずる質の向上と安全の確保、③団塊の世代の高齢化を目前に高齢世代への配分過剰をもたらす方式を改め、小児医療などの充実を図る努力は最優先して取り組むべきである。

市場経済活力発揮の基礎となる社会保障制度の役割と、医療に向けられる資源の有効活用の双方を視野に含めた研究と政策提言が求められる。

\* 慶應義塾大学経営大学院教授